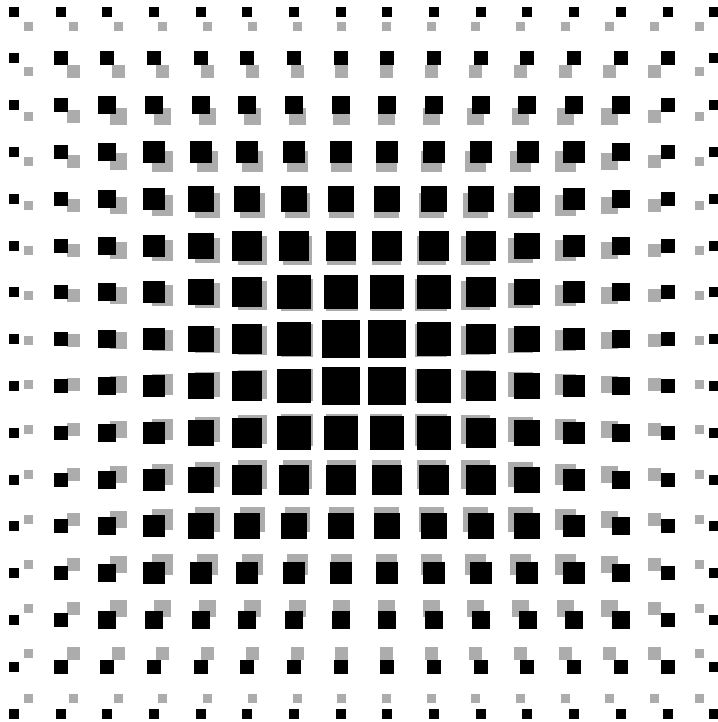
パワードサブウーハー

型名 SX-DW77
SX-DW75

Powered Subwoofer
SX-DW77
SX-DW75

目　次

（イラストはSX-DW77です）

お買いあげいただき、ありがとうございます。

⚠ご使用の前に

この**「取扱説明書」**をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に2～3ページの「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT1543-001A

安全上のご注意 ―はじめにお読みください―

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。
絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

●この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

●この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

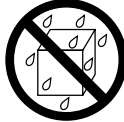
注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

異常時の注意

■万一、次のような異常が発生したときは、そのまま使用しない。火災や感電の原因となります。

電源プラグを抜く

・煙が出ている、へんなにおいがするなど異常のとき
・内部に水や金属物が入ってしまったとき
・落としたり、キャビネットが破損したとき
・電源コードが傷んだとき
（芯線の露出、断線など）

このようなときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店に修理を依頼してください。お客様ご自身が修理することは危険です。絶対にやめてください。

電源コードについて

■電源プラグは根元まで確実に差し込む

・差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線もコードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

■電源コードを加工したり、無理な力を加えたりしない。また家具などの重い物をのせない

・コードが傷つき、火災や感電の原因となります。
・芯線が露出するなど、コードが傷んだ場合は、使用を中止し、販売店にご相談ください。

■電源プラグにほこりや汚れがついた状態で使用しない。また金属物を近づけたりしない

・電気がほこりや汚れ、金属物を伝わり、火災や感電の原因となります。
・半年に一度は、プラグをコンセントから抜いて点検し、プラグとコンセントの間にたまったほこりや汚れを取り除いてください。

ご使用について

■電源は交流（AC）100Vを使う

・この機器を使用できるのは日本国内のみです。自動車や船舶などの直流(DC)電源に直接つないだり、指定外の電圧や電源で使用すると、火災や感電の原因となります。

This set is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

■機器の上に、液体の入った容器や小さな金属物をおかない

・液体が内部に入った場合は、電気が液体や金属部を伝わり、火災や感電の原因となります。

■機器内部に金属物や燃えやすいものを入れない

・火災や感電の原因となります。
・特にお子様にはご注意ください。

■本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない

・頭からかぶると窒息の原因となります。

■ネジをはずしたり、分解、改造したりしない

分解禁止

・内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
・内部の点検や修理などは、販売店にご依頼ください。

■水をかけたりぬらしたりしない

水ぬれ禁止

・機器を水がかかる場所で使用したり、水にぬらす（つけるかける、こぼす）などして使用すると漏電によって火災や感電の原因となります。
・万一、内部に水が入ったときは、電源プラグをコンセントから抜き、販売店にご相談ください。

■風呂、シャワー室では使用しない

水場での使用禁止

・風呂場やシャワー室では使用しないでください。漏電によって火災や感電の原因となります。

雷について

■雷が鳴ったら、アンテナ線や機器の金属部、電源プラグに触れない

接触禁止

・誘導雷により、感電の恐れがあります。

⚠警告

設置について

■本機の置き方は

・あお向け、横倒し、逆さま、通風孔をふさいだり、風通しの悪い狭い所、などに設置すると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。
・機器は壁から20cm以上、上面から10cm以上、両側は20cm以上の間隔をあけてください。こもり、火災の原因となります。

⚠注意

電源コードについて

■電源プラグの抜き差しはプラグを持つ

・コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

・感電する恐れがあります。

■熱器具に近づけない

・コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となることがあります。

■移動するときは、接続したコードや電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

・接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

設置・接続について

■重量物の取り扱い

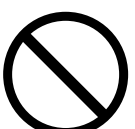
・本機は重量物なので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行ってください。誤った作業は、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

■湯煙や湯気の当たるところや湿気・ほこりの多いところに置かない

・電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因となることがあります。

■異常に温度が高くなるところに置かない

・機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因となることがあります。
・直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

■機器の上に大きいものや重いものは乗せない

・バランスが崩れて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

⚠注意

■不安定な場所に置かない

・機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■接続の前に接続する全ての機器の電源を「切」にしておく（電気プラグをコンセントから抜いておく）

・電源が「入」の状態で接続すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となることがあります。

■外部アンプと外部スピーカーの接続

・OUTPUT(HIGH LEVEL)に接続できるスピーカーは、INPUT 2(HIGH LEVEL)に接続したアンプが許容できる範囲のインピーダンスのスピーカーです。また、アンプの定格出力と同等以上の定格入力のスピーカーをお使いください。
・アンプとスピーカーの定格出力と定格入力やそれぞれの定格インピーダンスが不適合の場合は、火災や感電の原因となります。ご使用の際はそれぞれの取扱説明書をよくお読みください。不明な点がありましたら、販売店やサービス窓口にご相談ください。

ご使用について

■はじめから音量を上げすぎない

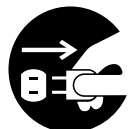
・突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
・あらかじめ音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

■長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグを抜いておく

電源プラグを抜く

・旅行などで長期間使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れについて

■お手入れの前には、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

・電源を入れたままにしておくと、感電の原因となることが感電の原因となることがあります。

■3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する

・内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨の前に行うと、より効果的です。

欧州連合のリサイクルマークです。

特長

1. トランジェントの良い重低音を再生する、速度型 MFB（Motional Feed Back）を搭載

ボイスコイルに取り付けられたセンサーにより､振動板の動きを直接捉え、音楽信号に強力に追従させる速度帰還MFBサーボを搭載しています。これによってトランジェントの優れた、音楽ソースに極めて忠実な低音再生を実現しました。
また、内蔵パワーアンプには専用設計の大出力Class-D アンプとローノイズで高効率な新開発スイッチング電源を使用し､ハイスピードで強力な駆動パワーを生み出すことに成功しています。

2. 高剛性､高音速のSPパルプ振動板に加えEPDMフォームラバーエッジを採用した高能率 30cm

ＳＰパルプを主成分とした腰のある振動板を、強力な磁気回路と 5 層構造のボイスコイルで駆動することにより、能率が高く過渡特性の優れたウーハーを実現しました。さらに本機ではエッジの材質に軽量でロスの少ないEPDMフォームラバーを採用、躍動感があり伸びやかな低音再生を実現しています。

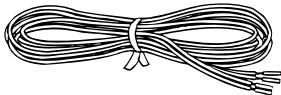
3. 高剛性な密閉型キャビネット

最も入力信号に忠実であり、音楽をありのままに再現する密閉型構造を採用することにより、あくまで正確な低音再生にこだわりました。
キャビネットの材質には下記を採用し、強固な構造としています。

	フロント面（30mm厚）	天面・側面・底面（25mm厚）
SX-DW77	MDF*	パーティクルボード
SX-DW75	MDF	MDF

*Medium Density Fiberboard

付属品の確認

ご使用になる前に本機に添付されている付属品をご確認ください。

●スピーカーコード（３ｍ）・・・２本
●シグナルコード（５ｍ）・・・１本
● 電源コード・・・１本
●フット・・・４個

使用上のご注意

■本機を美しく保つためには

キャビネットやパネル操作面が汚れたら柔らかい布でからぶきしてください。
汚れがひどいときは、水または中性洗剤を少し布につけてふき、あとはからぶきしてください。
メタノール等の溶剤を使用すると、表面の艶が変化する場合がありますのでご注意ください。

■ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは､隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り､快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

■音場の改善

●反射または共振を起こしやすい洋間では、厚手のカーテンやジュータンなどをお使いください。
また、スピーカーの正面（向かい側）が固い壁やガラス戸などの場合には､反射や定在波の発生を防ぐ目的で厚手のカーテンなどで吸音処理することをおすすめします。

■フットの取付け方

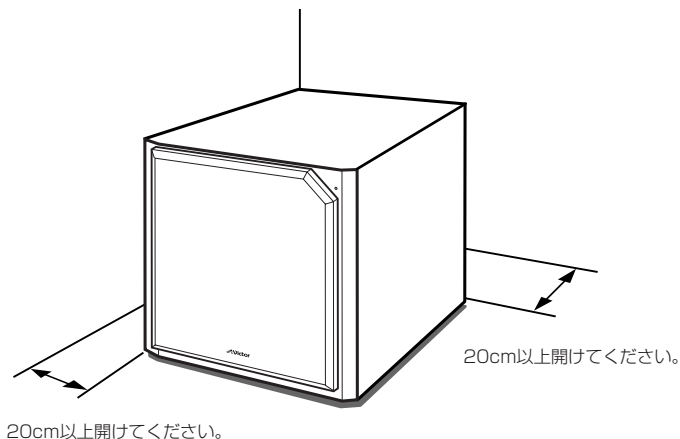
●本機をセッティングする場合､キャビネットの保護、滑り防止、およびキャビネットの振動を吸収しますので、フットを貼ることをおすすめします。

注意

・正常に動作しなくなる恐れがありますので､テストトーンや正弦波等、音楽信号以外は入力しないでください。
・過大な信号が入力された場合､保護回路が働き、音が出なくなる事があります。この場合は、一度電源スイッチを OFF にするか､電源コードを抜いて再度電源を入れ直してください。

設置上のご注意

■設置上の注意

・前面は大きく開けてください。
・側面は 20 cm 以上開けてください。
・上面は 10 cm 以上開けてください。
・裏面は 20 cm 以上開けてください。

●キャビネットの変形・変色を防止するため、直射日光や湿気の多い所、冷暖房器の近くなどを避けて設置してください。

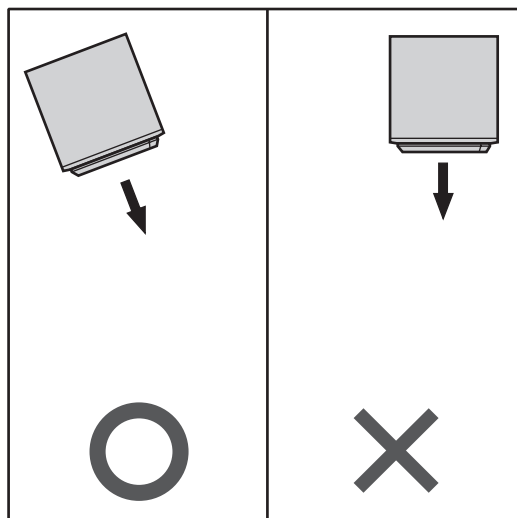
●スピーカーの振動でハウリングを起こすことがあります。できるだけレコードプレーヤーから離してください。

●地震や衝撃などで倒れないように設置場所を十分考慮してください。

●本機はカラーテレビに対して色むらを起こさないように防磁処理をしてありますが、設置方法によっては色むらが生じる場合があります。設置の際は、以下の点にご注意ください。

1. 本機と一緒にテレビを使用する場合は、必ずテレビの主電源スイッチを切ってから設置してください。なお、テレビの主電源スイッチは切ってから少なくとも 30 分後に入れるようにしてください。
2. テレビの種類によっては、色むらを生じることがあります。色むらを生じるときは、テレビより十分離して設置してください。

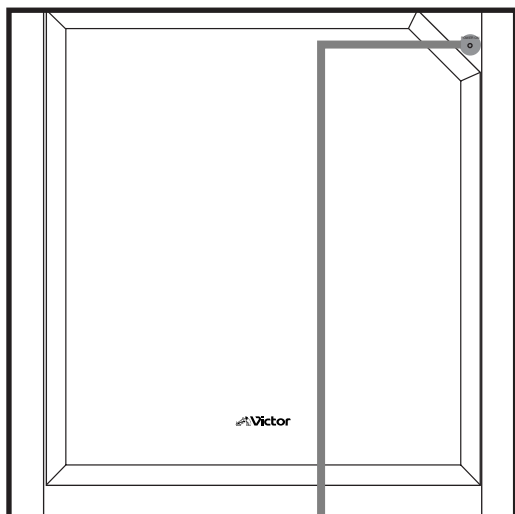
●本機の近くで FM 放送や AM 放送をお聞きになると、電波の弱い状態ではノイズが増えることがあります。離して設置するか十分な電波の強さを得られる外部アンテナをご使用ください。

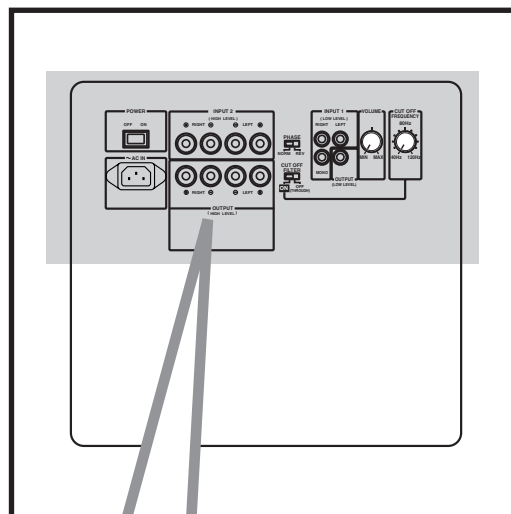
■本機の置き方

設置例

●部屋の平行面に向けると、壁からの反射音等により打消しが生じ、低音が聴き取りずらくなることがありますので、少し内側に向けて設置してください。

●ホームシアターでの使用時、リアスピーカーが小型の場合、本機をリア側にも追加することをお薦めします。こうすることで、より迫力のあるサウンドをお楽しみ頂けます。

各部の名称と機能

■前面

パワーインジケーター
電源ONのときに点灯します。

■背面

PHASE
低音が豊かに聞こえる方に切り換えます。
NORM　: NORMAL
REV　　: REVERSE

VOLUME
組み合わせるスピーカーの能率に合わせて、音量の調節ができます。

INPUT 2（HIGH LEVEL）
アンプのスピーカー出力を接続する端子です。

CUT OFF FREQUENCY（カットオフ周波数）
メインのスピーカーとの音のつながりを調節します。

POWER
本機の電源ON/OFFをします。

OUTPUT（LOW LEVEL）
INPUT 1（LOW LEVEL）にアンプの出力を接続した場合には、この端子からLとRが混合したアンプの出力が取り出せます。

OUTPUT（HIGH LEVEL）
INPUT 2（HIGH LEVEL）にアンプの出力を接続した場合には、この端子からアンプの出力がそのまま取り出せます。

INPUT 1（LOW LEVEL）
接続するアンプのモノ出力またはサブウーハー出力やプリアウトを接続する端子です。

CUT OFF FILTER
このスイッチによりCUT OFF FILTERのONとOFF（THROUGH）を設定します。
（詳しくは10ページの**「音の調節」**を参照してください）

接　続

全ての接続作業が終了するまで、電源コードは電源コンセントに差し込まないでください。

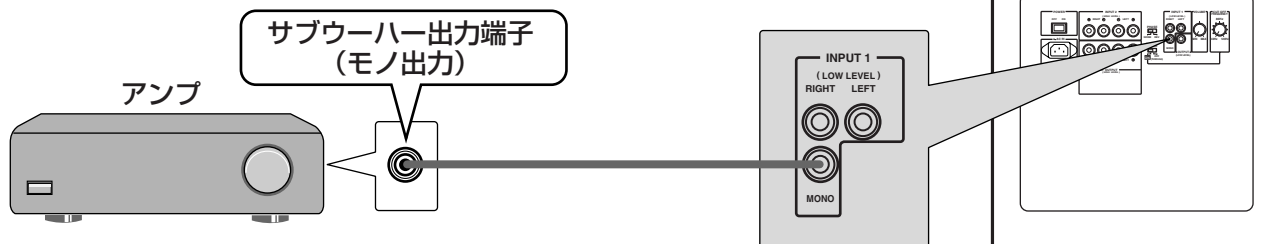
注 意

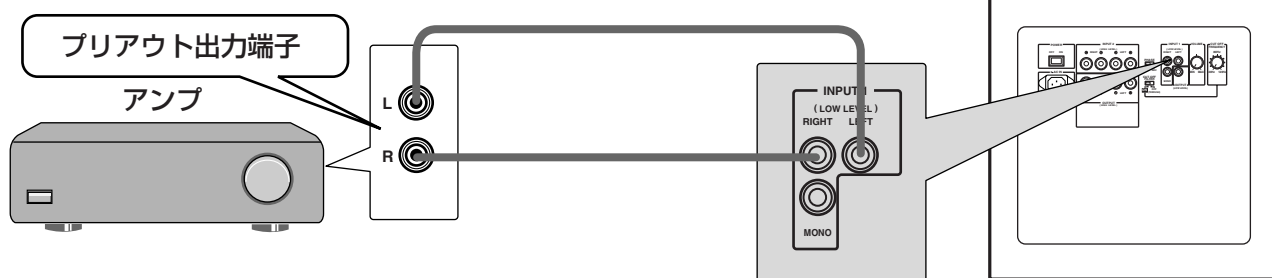
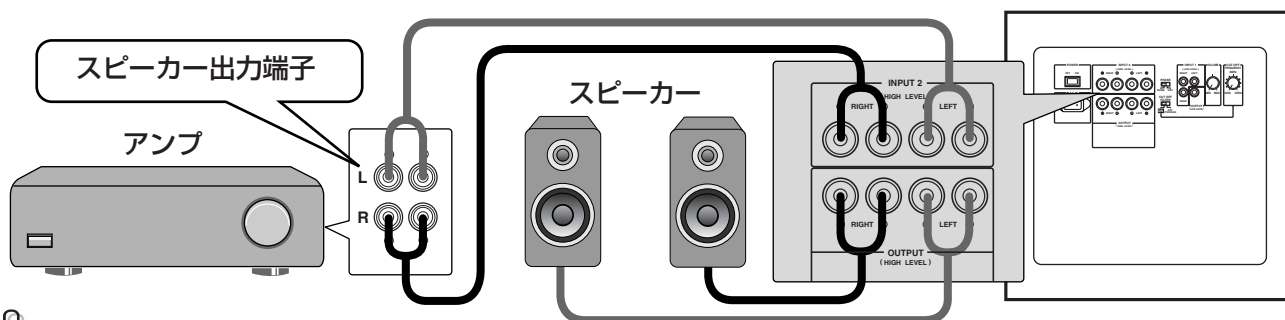
- アンプと接続する際は必ず、アンプ側の電源を切ってから作業してください。
- 本機の「 INPUT 1」、「 INPUT 2 」は同時に使用しないでください。ノイズが増えたり故障の原因となります。
- 本機の「 INPUT 1」とアンプ等の REC OUT（録音出力）端子は接続しないでください。

接続するアンプ等にサブウーハー出力端子、プリアウト出力端子の両方がある場合、サブウーハー出力端子と接続することとをおすすめします。また、どちらの出力端子もない場合は、スピーカー出力端子と接続をしてください。

■ 本機を 1 台接続する方法

①アンプにサブウーハー出力、モノ出力のある場合。

●付属のシグナルコードをご利用ください。

②アンプに PRE OUT（プリアウト）出力のある場合。

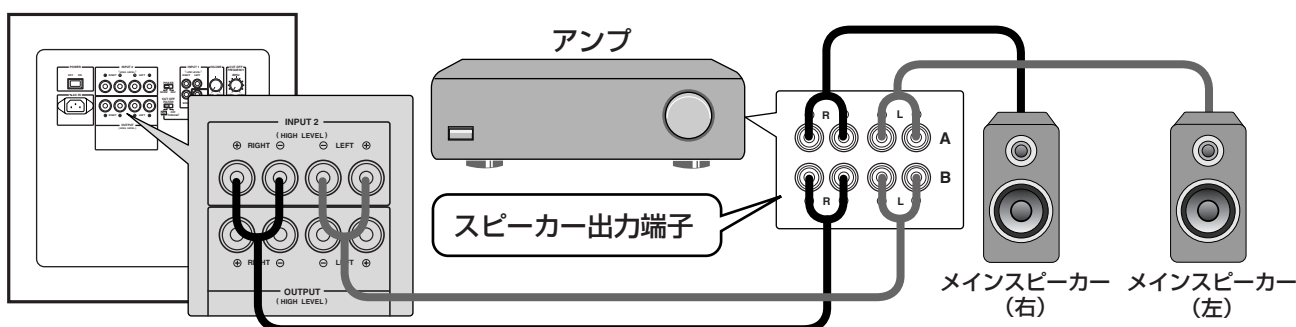
●接続コードは別途ご用意ください。

③アンプにサブウーハー出力、モノ出力がなく、スピーカー出力が 1 系統だけある場合。

●付属のスピーカーコード（付属は 2 本です）をご利用ください。

注 意

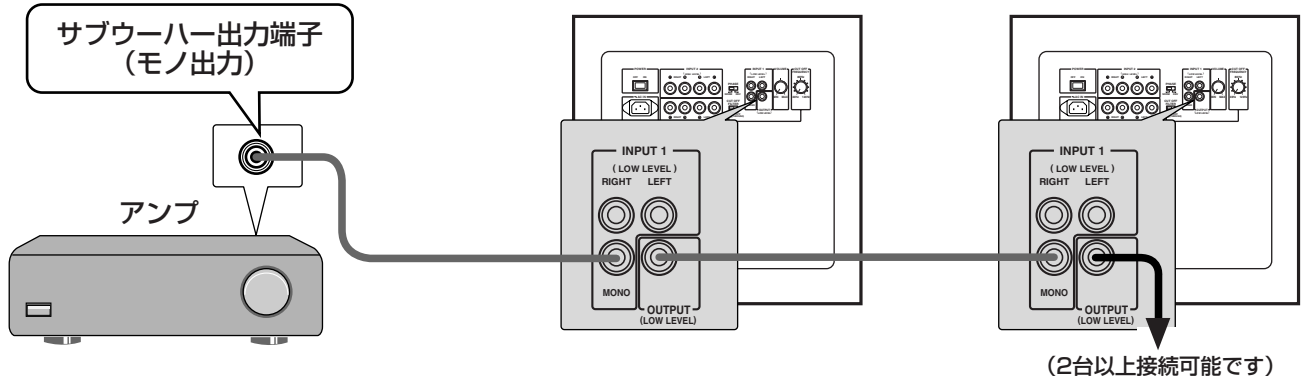
- 本機に接続するメインスピーカーの入力インピーダンスを確認してください。
- メインスピーカーは、接続するアンプに表示されたインピーダンスの範囲以内のものをご使用ください。

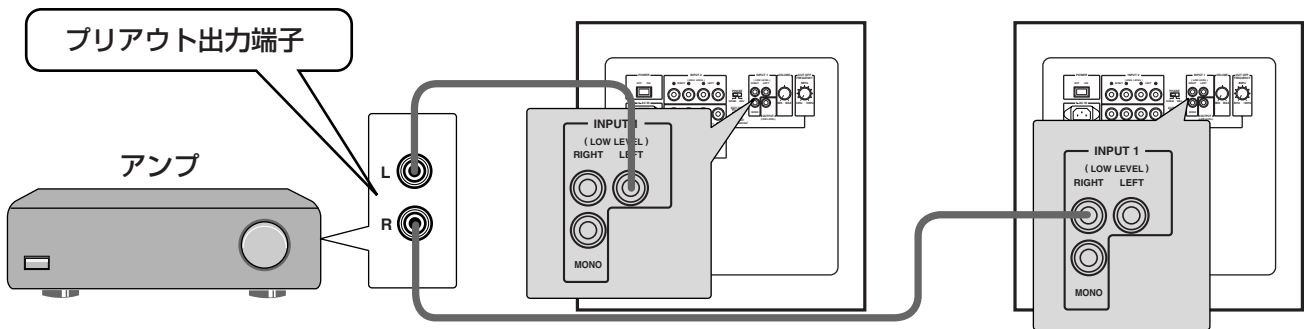
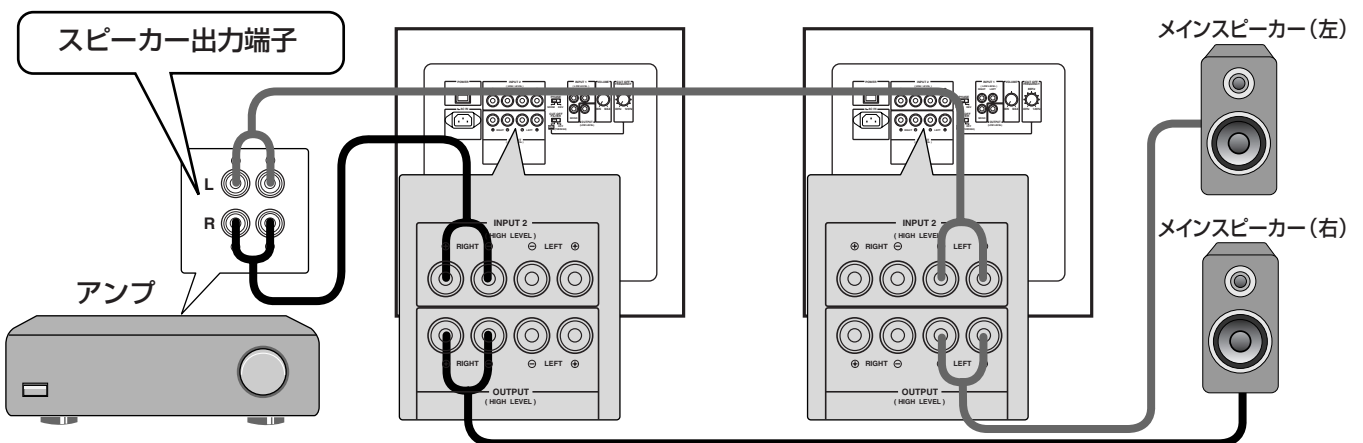
④アンプにサブウーハー出力、モノ出力がなく、スピーカー出力が 2 系統 あり、同時出力が可能な場合。

●付属のスピーカーコード（付属は 2 本です）をご利用ください。

全ての接続作業が終了するまで、電源コードは電源コンセントに差し込まないでください。

■ 本機を２台接続する方法

①アンプにサブウーハー出力、モノ出力のある場合。

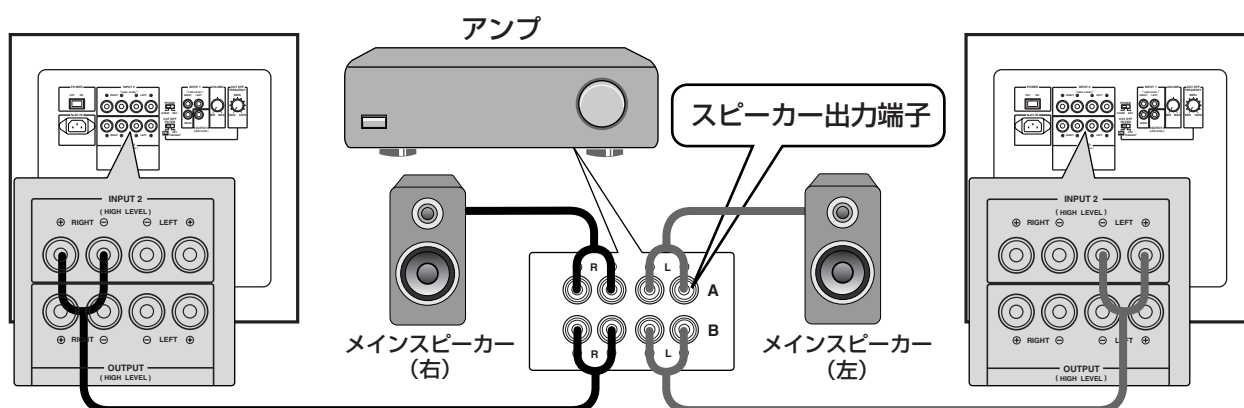
●付属のシグナルコード（付属は１本です）をご利用ください。

②アンプに PRE OUT（プリアウト）出力のある場合。

●付属のシグナルコード（付属は１本です）をご利用ください。

③アンプにサブウーハー出力、モノ出力がなく、スピーカー出力が１系統だけある場合。

●付属のスピーカーコード（付属は２本です）をご利用ください。

注 意

・本機に接続するメインスピーカーの入力インピーダンスを確認してください。
・メインスピーカーは、接続するアンプに表示されたインピーダンスの範囲以内のものをご使用ください。

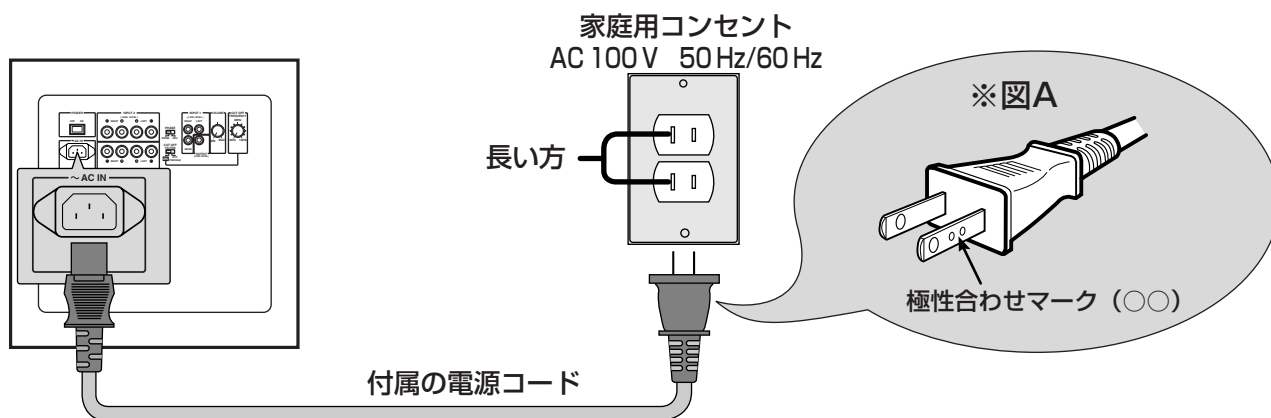
④アンプにサブウーハー出力、モノ出力がなく、スピーカー出力が 2 系統 あり、同時出力が可能な場合。

●付属のスピーカーコード（付属は 2 本です）をご利用ください。

■電源コードの接続（すべての接続が終わったら）

リアパネル部の AC IN 端子に電源コードのコネクター部を差し込んでから、電源プラグを家庭用コンセントに差し込みます。

●付属の電源コードを使用します。

●付属の電源コードには電極の片側にマーキング（※図 A）が入っています。これは各機器の電源コードの極性を合わせることによって、よりよい音質を得るためのものです。
屋内配線や電源事情により異なりますが、一般的にはコンセントの差し込み口の長い方にマーキングがくるように差し込みます。

●アンプの AC OUTLET に差し込む場合は AC OUTLET の使用可能電力が本機の消費電力（90 W）以上あることを確認してください。

・形状の違いによる故障や事故を防止するため、指定以外の電源コードは絶対に使用しないでください。
・付属の電源コードは、本機以外の機器には使用しないでください。

・付属の電源コードのプラグには、片側に「極性合わせマーク（○ ○）」が付いています。電源の極性を合わせ、よりよい音質を得るために、電源プラグを差し込むときは、「極性合わせマーク（○ ○）」がコンセントの差し込み口の長い方になるように接続してください。
・電源は家庭用の AC コンセントから直接取るようにしてください。

音の調節

■音量の調節

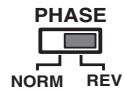
メインのスピーカーとのバランスをとるために音量を調節します。

1. 本機の VOLUME つまみを MIN の位置にします。（図ー 1）

2. アンプの音量を普段聞いている程度にし、音楽を再生します。

3. 本機の VOLUME つまみを回して、メインのスピーカーの音量とバランスの取れる位置にあわせます。（図ー 2）

図ー 1

図ー 2

●本機とメインのスピーカーとのバランスをとった後は、アンプのボリュームを使って、メインスピーカーと同様に本機の音量も調節することができます。

■ PHASE スイッチ

低音が豊かに聞こえる状態に設定します。

・PHASE スイッチ

PHASE
NORM REV
：NORMAL
（通常はこちらの状態で、ご使用ください）

PHASE
NORM REV
：REVERSE
（低音が不足しているときは、こちらをご使用ください）

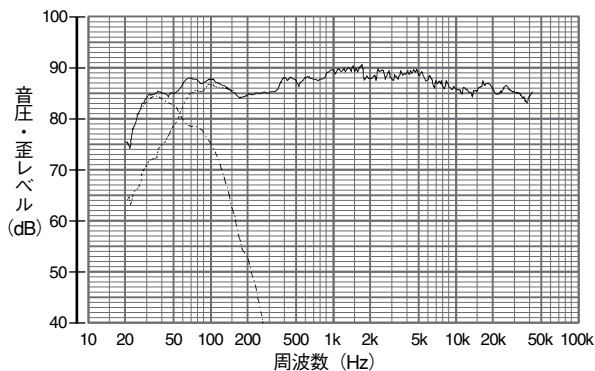
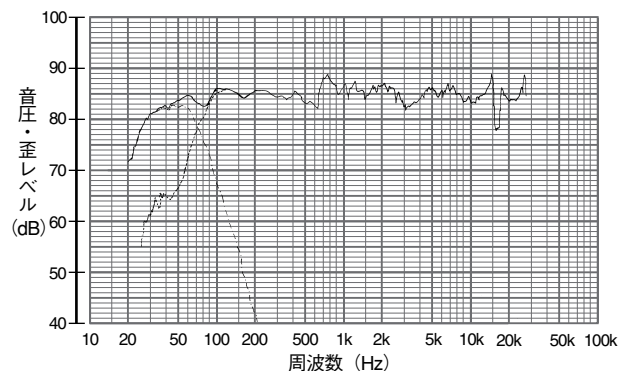
■ CUT OFF FILTER の使い方

CUT OFF FILTER スイッチの ON/OFF（THROUGH）を設定します。ON 設定時は、CUT OFF FREQUENCY つまみにより、カットオフ周波数の調節が行えます。

・CUT OFF FILTER スイッチ

CUT OFF FILTER
ON OFF (THROUGH)
：ON
（本機でカットオフ周波数の調節をする場合は、こちらの状態でご使用ください）

：OFF（THROUGH）
（再生機器側でカットオフ周波数の調節を行う場合は、こちらの状態でご使用ください）

・各スピーカータイプによる特性図 （CUT OFF FILTER ON での使用）

中型フロアタイプスピーカー＋ SX-DW77/SX-DW75
CUT OFF FREQUENCY 40 Hz

小型スピーカー＋ SX-DW77/SX-DW75
CUT OFF FREQUENCY 80 Hz

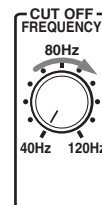
●ここに示した組み合わせ例は代表的なもので、これ以外にもお好みによりいろいろな使い方が考えられます。

■ CUT OFF FREQUENCY つまみ

メインのスピーカーと本機との音のつながりをこのつまみで調節します。お持ちのスピーカーが小型で中低域が不足している場合は、周波数を高めに設定します。

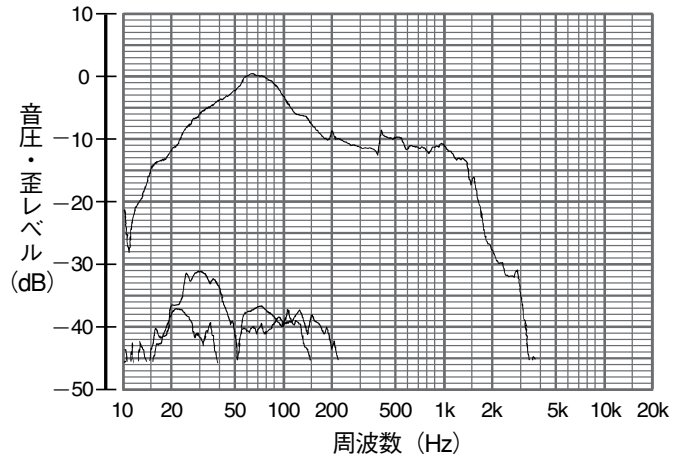
■ CUT OFF FREQUENCY の使い方の目安

40 Hz ：口径 30 cm 以上の大型スピーカーと組み合わせる場合。
80 Hz ：口径 15 cm 程度の小型スピーカーと組み合わせる場合。
120 Hz ：口径 10 cm 以下のマイクロスピーカーと組み合わせる場合。

CUT OFF FREQUENCY
80Hz
40Hz 120Hz

仕　様

種　類 ： パワードサブウーハー
密閉型／防磁形（JEITA）
使用スピーカー ： 30 cm　コーンスピーカー
再生周波数帯域 ： 16 Hz～250 Hz
（CUT OFF FILTER OFF 時）
入力インピーダンス ： 22 k Ω（LOW- LEVEL）
440 Ω（HIGH- LEVEL）
入力端子 ： INPUT 1（LOW- LEVEL）
INPUT 2（HIGH- LEVEL）
出力端子 ： OUTPUT（HIGH- LEVEL）
OUTPUT（LOW-LEVEL）
電源電圧 ： AC 100 V　50 Hz ／ 60 Hz
内蔵アンプ最大出力 ： 600 W
消費電力 ： 90 W
最大外形寸法 ： （横幅）390 mm ×（高さ）390 mm ×
（奥行き）445 mm
質量 ： 25 kg
付属品 ： スピーカーコード（2 本）
シグナルコード（1 本）
電源コード（1 本）
フット（4 個）

（注）本機の仕様および外観は、改善のために予告なく変更することがあります。

特性図

入力：0.01 V（LOW LEVEL IN）
距離：1 m
（CUT OFF FILTER─ OFF、INPUT LEVEL─ CENTER）

CUT OFF FREQUENCY 特性

故障かな？と思う前に

症状	原因	処置
電源が入らない！	電源コードがコンセントから抜けていませんか？	電源コードをコンセントにしっかり差し込んでください。
音がでない！	ボリュームつまみが MIN になっていませんか？	ボリュームつまみを適当な音量になるまで、回してください。
	接続のしかたをまちがっていませんか？	接続のしかたを確認してください。（7 ～ 9 ページを参照してください）
	保護回路が働いていませんか？	電源を入れ直してください。（4 ページの注意文を参照してください）
ハウリングをおこす	設置のしかたは大丈夫ですか？	設置のしかたを確認してください。（5 ページを参照してください）
	音量を大きくしすぎていませんか？	ボリュームつまみをハウリングがなくなるまで、MIN の方向に回してください。

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保　証　書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保　証　期　間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

ご転居等、保証書記載のお買い上げ販売店にご依頼になれない場合には、添付の**「ビクターサービス窓口案内」**をご覧のうえ最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	パワードサブウーハー
型　　名	SX-DW77 SX-DW75
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電　話　番　号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎(　　)　　－

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
添付の「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル **0120−2828−17** 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は **電話 (045) 450-8950** **FAX (045) 450-2275** 〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

・ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問い合わせへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

0406NYMSANPRI